



安らぎを感じる和の空間。建具はすべてオリジナルで製作。職人技を取り入れた家づくりは、昔ながらの技術を守り、未来に残すことにつながる



屋外にバスコートを用意した浴室は、リゾートホテル風のガラス張り。洗面台はモザイクタイルを据ってモダンなデザインに仕上げた



建物の裏手にある蔵はタイルのショールームとして使っている。2階は隠れ家風の趣味の小部屋。昔の職人の名前が記された頭丈な木組みがよく見える

Company Profile

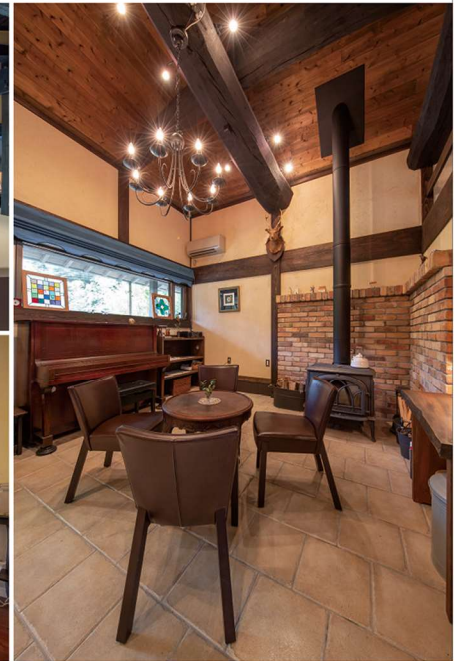
株式会社 ハウスランド社

福岡県筑紫野市大字吉木344-1  
TEL 092-922-8771  
http://www.h-land.jp

●詳しい情報はP000に掲載

LDK一休型の間取りが主流の昨今。キッチンには機能だけでなく、インテリアの一部としての美しさも求められるようになった。同社で造作家具のデザイナーも手がける設計兼コーディネーターの糸山葵さんは「当社では大半のお客さまが食器棚の造作を希望されます。最近は空間に合わせて木製キッチンを要望される方も増えていきます」と明かす。施主の要望をもとにデザインを考え、職人と相談して、使いやすく長持ちする設備をつくる。「それができるのは家具職人も建具職人もいる当社ならでは。一枚板のダイニングテーブルもかなりリーズナブルにつくれるので注文も多いんですよ」（糸山さん）。古びた味わいを真似るだけでなく、昔ながらの職人技で手間を惜しまず建てた家は、住むほどに愛着が深まるに違いない。

100年残る家を建てる  
手間を惜しまず丁寧に



三上さんが「風のくら」をつくるにあたって参考にしたのは、国内外の文化に造詣が深く、鋭い審美眼を持つことで知られる白洲次郎・正子夫妻が暮らしした「武相荘（ぶあいそう）」。「シンプルで整った和のしつらひや、季節の移ろいを感じさせる小物や草花のあしらいに、昔ながらの日本の暮らしが思い起こされる。古民家スタイルの家を建てたい人は、このモデルハウスの陰影の美しさを賞しめる空間デザインや照明設計もぜひお手本にしてほしい

本物の素材と技術で  
リアルな古民家スタイルを実現

だれもが欲しい場所に、程度の良い古民家を見つけてリノベーションできるわけではない。では、古民家のエッセンスを取り入れた住まいをつくるにはどうすればいいのか？「ハウスランド社」のつくる家を見ると、重厚感や温もりを感じさせる鍵は「造作」にあるように思える。「既製品の建具は色も選べないし、水回りなど使用頻度の高い箇所では古くなるのが早く、湿気で表面がべろりとめくれてしまうこともあります。何より、古民家に既製品は似合わないし、古びた色合いは調合すれば無限につくりだすことができます。当社では職人の手仕事を大事にして、建具はすべてオリジナルで製作。素材も陳腐化するようなものは使わず、無垢の本や陶器、タイルやガラスなどを選びます。建てたときが一番きれい。なのは残念なこと。自然素材で建てた家は、時間が経つほど味わい深くなるのも魅力です」三上さん。

